

小型血糖測定器 (自己検査用グルコース測定器)

グルテストPRO R

採血用穿刺器具

ジェントレット

操作方法

正しい血糖測定をするために。

※詳しくは各製品の取扱説明書をご覧ください。

製品の取扱いに関するお問い合わせは

0120-07-8130

365日24時間お受けいたします

株式会社 三和化学研究所

血糖測定に必要なものをそろえてください。

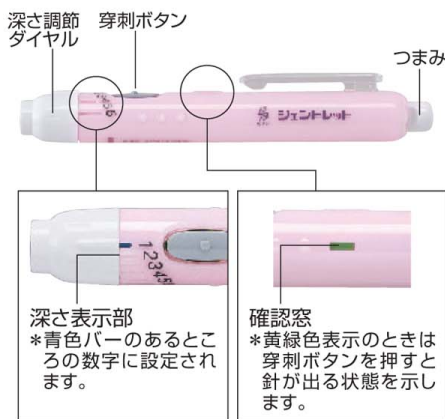


採血の準備をしましょう。

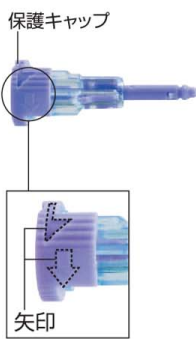


【ジェントレットと採血針の各部の名称】

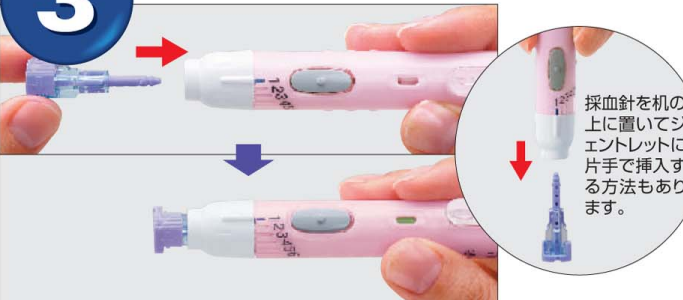
ジェントレット



採血針



3 新しい採血針をセットしてください。

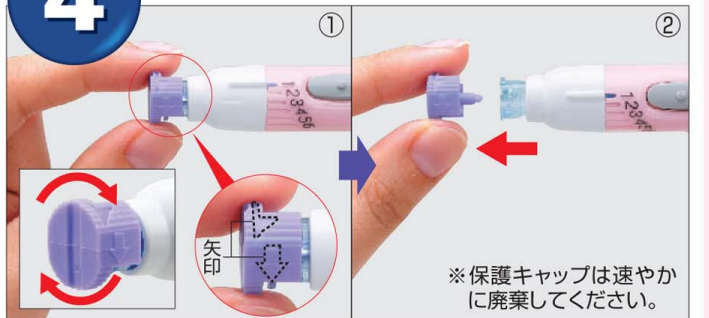


採血針をジェントレットの先端にまっすぐ挿入し、確認窓全体が黄緑色になるまでしっかりと押し込みます。

注意

採血針は使い捨てですので、再使用しないでください。確認窓に黄緑色の表示が出ている状態で放置しないでください。[故障の原因となります。]また、採血針をジェントレットに装着したまま、放置しないでください。[針が誤って発射される危険性があります。]保護キャップを外した採血針はジェントレットに装着できません。

4 紫色の保護キャップを取ります。

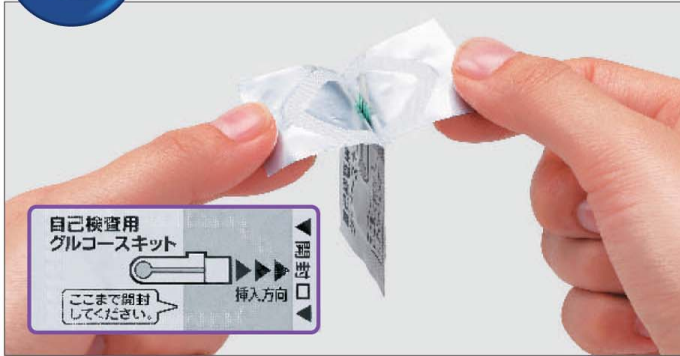


注意

※矢印の方向と逆に回転させないでください。(破損するおそれがあります)

血糖測定の前準備をしましょう。

5 グルテストセンサーを開封してください。



グルテストセンサーのアルミパックを指定の所まで開けます。空のアルミパックは使用したグルテストセンサーを廃棄するときに使用します。捨てないでください。

6 グルテストセンサーを挿入してください。



グルテストセンサーを乾いたきれいな手でつまみ、グルテストPRO Rに挿入します。

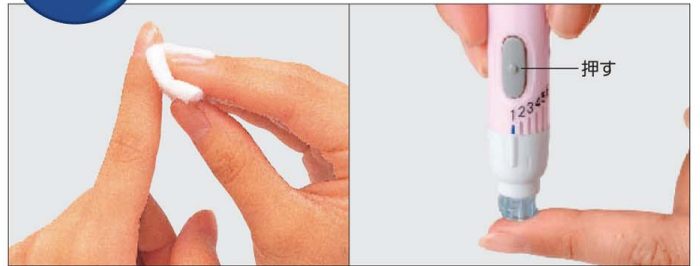
注意 グルテストセンサーを濡れた手で触らないようにしてください。グルテストセンサーは、グルテストPRO Rに奥までしっかりと挿入してください。

7 自動的に電源が入ります。



「88.8」が表示されたあと、「F-5」が点滅表示されていることを確認します。(既に測定を行っている場合には、「F-5」と前回の測定値が交互に表示されます。)

8 消毒し乾燥させた後、指先にあててボタンを押し、血液滴を得ます。



ジェントレットに取りつけた採血針の先端を採血部位につけて、グレーの穿刺ボタンを指で押し、測定に必要な血液滴を得ます。

※誤って穿刺ボタンを押してしまった時や、十分量の血液滴が得られない場合は、採血針をセットしたまま、つまみを「カチッ」と音がするまで引っぱってください。この時、穿刺深さ調節も可能です。

注意 感染のおそれがありますので必ず消毒してください。

血糖を測定しましょう。

9 F-5が点滅表示されていることを確認します。



「F-5」が表示されていれば血糖の測定ができます。(グルテストセンサーを挿入して3分過ぎると点滅表示が終了し、その状態では測定できません。一度グルテストセンサーを抜き取り、再度挿入してください。)

10 自動的に測定を開始します。



グルテストセンサーの先端部を血液に触れさせます。血液は自動的に吸引され測定を開始します。グルテストPRO Rはカウントダウンを行います。

注意 ブザー音が鳴るまで、グルテストセンサーは採血部位から離さないでください。また、血液量が少なすぎるとブザー音が鳴っても正確な測定値が得られません。

吸引させた量が少ないと、ブザー音が鳴っても正確な測定結果が得られず、異常低値を示します。

血液吸引量が十分な例



グルテストセンサー先端部模式図

血液量が不十分な例



グルテストセンサー上面の+穴または電極部上面に血液を滴下して測定しないでください。

11 血糖値が表示されます。



15秒後、血糖値が表示されます。
操作ボタンにより食後に測定した血糖値にマークを付け区別して記憶することができます。ボタン操作方法は裏面をご覧ください。
※血糖値が20mg/dLを下回った場合は「Lo」、600mg/dLを越す場合は「Hi」と表示されます。

注意 測定値は糖尿病手帳等に記録してください。

12 測定後の処理



測定が終わったらグルテストセンサーを残しておいた空のアルミパックでつまみ、グルテストPRO Rから抜き取ります。グルテストPRO Rの電源が自動的に切れます。

注意 使用後のグルテストセンサーは感染の危険性があるため、アルミパックに包み、他の人に触れないように廃棄してください。

13 使用後の採血針は速やかに廃棄してください。



！ 採血・測定のコツ

※手ブレを防ぐため両手を机の上に置いて固定してから採血・測定してみましょう。

ジェントレットのつまみを押すと、採血針が外れます。

注意 採血後は必ずばんそうこうで止血してください。傷口が治りにくいときは、こまめに消毒してください。使用後の採血針には触れないでください。[感染の危険性があります。] 使用後の採血針は速やかに廃棄してください。一度保護キャップを外した採血針は、再度保護キャップを装着(リキャップ)しないでください。使い終わった採血針は、リキャップせずに適切に廃棄してください。



ジェントレットを鉛筆を持つようにしてボタンを押して穿刺します。



グルテストセンサーの先端を血液に軽く触れさせます。